

体験を通じて考えた「幸せ」とは

〜優しいひいおばあちゃんが教えてくれたこと〜

12月15日に、本会および県共同募金会の共催で「第42回神奈川県福祉作文コンクール」(後援：県、県・市町村教育委員会、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、テレビ神奈川、日揮社会福祉財団)の表彰式を開催しました。県内の小・中学校合わせて275校から10379編の応募があり、昨年度より749編多く寄せられました。地区審査から県一次審査、県最終審査会で選考され、最優秀賞16編、優秀賞20編、準優秀賞20編、合計56編が表彰されました。



講評する鈴木さん



ひいおばあちゃんとの思い出を楽しく語る山崎さん

この度、県知事賞を受賞した山崎琴子さんは、楽しくて優しいひいおばあちゃんが、病院では元気なく横たわっている姿を目の当たりにし、辛い思いをした経験を作文にしてくれました。「病院では別人のようでしたが、ホスピスに移り、好きなことができたことで、ひいおばあちゃんは元気な笑顔をとりもどし、家族と楽しく過ごすことができました」と、当時の思い出を語ります。

この経験から、介護される人に楽しみがあることが生きる希望となり、小さな幸せを感じることで、最期までその人らしい生活を送ることができるとは、と考えたそうです。

何でも積極的に行動し、将来は天文学者になりたいと目を輝かせる山崎さん。友だちにも恵まれ、毎日たくさん幸せを感じていると語る笑顔に、未来の希望が満ち溢れていました。

(地域福祉推進担当)

「介護を経験して」

山崎琴子さん(聖セシリア小学校6年)
私のひいおばあちゃんは、二年前、がんで亡くなりました。最後の一年間、私はひいおばあちゃんの介護をしていました。

一番はじめに入院したのは、とても大きな病院でした。病院での食事は、サラダも魚も全部、ゼリー状のトロトロのものでした。普通の食事では、むせて肺炎を起こす可能性があるのでそうです。けれども、ひいおばあちゃんは、いくら家族で说得しても、食事に手をつけず、栄養入りの飲み物を少し飲むのがやっとで、だんだんと衰弱してしまいました。わざわざ食べやすくしてあるのに、なんで食べないのだろう。みんな心配しているのに。私はそう思いました。

でも、ある時、「いつものかたいものが食べたいよ」と呟くのを聞いて、ひいおばあちゃんの以前の生活を思い出しました。旅行が大好きで、色々な話を話してくれた優しいひいおばあちゃん。それと、目の前のベッドに横たわっている姿は別人のようでした。

(本文一部抜粋) ※本会ホームページで本作品を含む最優秀賞16編を掲載しています。

借金・離婚・相続・労働問題・犯罪被害...

こんなとき、まずは法テラスへ

よかった、電話して。

日本司法支援センター

法テラス

法的トラブルは、適切な機関や専門家に相談するのが解決への近道。まずはお気軽に法テラスへお電話ください。内容に応じて、ご利用いただける法律制度や相談窓口をご案内します。

法テラス・サポートダイヤル

0570-078374

【夜間・土曜日もどうぞ】 (平日 9:00~21:00 / 土曜日 9:00~17:00) 犯罪被害者支援ダイヤル **0570-079714**

法テラス神奈川

☎050-3383-5360

〒231-0023 横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル10階

法テラス川崎

☎050-3383-5366

〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11-1 パシフィックマークス川崎ビル10階

法テラス小田原

☎050-3383-5370

〒250-0012 小田原市本町1-4-7 朝日生命小田原ビル5階

受付時間【共通】 平日9:00~17:00

「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています